

# おかげさまで 創刊 2500号 週刊「観光経済新聞」

## 観光業界・一般社会の動き

- 昭和25年(1950) 朝鮮戦争勃発
- 帝国ホテルが政府登録第1号
- 昭和26年(1951) 日米安保条約調印
- 日本航空設立
- 昭和27年(1952) メーデー事件
- 羽田一部返還、東京国際空港に改名
- 昭和28年(1953) NHKテレビ放送開始
- 国際観光旅館連盟が社団法人認可
- 昭和29年(1954) 第5福丸丸被爆
- 青函連絡船洞爺丸転覆
- 昭和30年(1955) 自由民主党誕生
- 運輸省観光部、観光局に昇格
- 昭和31年(1956) 日ソ共同宣言
- 国民宿舎設置開始
- 昭和32年(1957) さっぽろテレビ塔開業
- 昭和33年(1958) なべ底不況
- 関門国道トンネル開通
- 昭和34年(1959) 東京タワー竣工
- 日本観光協会新発足
- 昭和35年(1960) 皇太子ご成婚
- 浅草寺雷門再建
- 昭和36年(1961) カラーテレビ放送開始
- 運輸省、初の観光白書
- 昭和37年(1962) 世界初の有人宇宙船
- 北陸本線北陸トンネル開通
- 昭和38年(1963) 東京都世界初1000万人都市
- 観光基本法公布
- 昭和39年(1964) ケネディ大統領暗殺
- 東海道新幹線開業
- 昭和40年(1965) 東京オリンピック
- 第1回観光週間
- 昭和41年(1966) 大学生数100万人突破
- 東アジア観光協会設立
- 昭和42年(1967) 日本の人口1億人突破
- 国際観光年
- 昭和43年(1968) ASEAN結成
- 運輸省観光局廃止、観光部に
- 昭和44年(1969) 3億円事件
- 東名高速道路全線開通
- 昭和45年(1970) アポロ11号人類初月面着陸
- 大阪で万国博覧会
- 昭和46年(1971) よど号ハイジャック
- 旅行業法公布
- 昭和47年(1972) ニクソンショック
- 山陽新幹線新大阪-岡山開業
- 昭和48年(1973) 沖縄返還
- 関門橋開通
- 昭和49年(1974) 第1次石油ショック
- 日中航空協定署名
- 昭和50年(1975) ルバング島で小野田元少尉発見
- 沖縄海洋博
- 昭和51年(1976) サイゴン陥落
- 新幹線こだまに禁煙車
- 昭和52年(1977) ロッキード事件
- 第1回JATAコンgres開催
- 昭和53年(1978) 王選手ホームラン世界記録
- 日本、世界観光機関加盟
- 昭和54年(1979) 成田空港開港
- 上越新幹線大清水トンネル貫通
- 昭和55年(1980) ソ連アフガニスタン侵攻
- 川治プリンスホテル火災
- 昭和56年(1981) イラン・イラク戦争勃発
- 神戸ポートアイランド博
- 昭和57年(1982) ダイアナ妃結婚
- 東北・上越新幹線開業
- 昭和58年(1983) 500円硬貨発行
- 東京ディズニーランド開業
- 昭和59年(1984) 三宅島噴火
- 観光政策審議会が運輸省に移管
- 昭和60年(1985) グリコ森永事件
- 東北・上越新幹線上野駅乗り入れ
- 昭和61年(1986) 日航機墜落
- 国際観光モデル地区制度開始
- 昭和62年(1987) チェルノブイリ原発事故
- 国鉄分割民営化
- 昭和63年(1988) ブラックマンデー
- 青函トンネル、瀬戸大橋開通
- 平成元年(1989) リクルート事件
- 吉野ヶ里の環濠集落発掘
- 平成2年(1990) 消費税スタート
- 大阪で国際花博
- 平成3年(1991) バブル崩壊
- 観光交流拡大計画策定
- 平成4年(1992) ソ連崩壊
- 地域伝統芸能等活用法公布
- 平成5年(1993) 東京佐川急便事件
- 屋久島など世界遺産登録
- 平成6年(1994) 55年体制崩壊
- 関西国際空港開港
- 平成7年(1995) 松本サリン事件
- 旅フェア初開催
- 平成8年(1996) 阪神淡路大震災
- ウエルカムプラン21発表
- 平成9年(1997) O-157食中毒多発
- 秋田・長野新幹線開業
- 平成10年(1998) 拓銀、山一証券破綻
- 明石海峡大橋開通
- 平成11年(1999) 毒入りカレー事件
- しまなみ海道開通
- 平成12年(2000) 日銀ゼロ金利政策
- 祝日3連休法施行
- 平成13年(2001) 2000円札発行
- 日本ツーリズム産業団体連合会設立
- 平成14年(2002) 米国同時多発テロ
- JAL、JAS経営統合
- 平成15年(2003) 小泉首相訪朝
- 観光立国行動計画決定
- 平成16年(2004) SARS流行
- 九州新幹線八代-鹿児島中央開業
- 平成17年(2005) 新潟県中越地震
- 愛知万博開催
- 平成18年(2006) 耐震偽装問題
- 観光立国推進基本法成立
- 平成19年(2007) ライブドア事件
- 観光立国推進基本計画策定
- 平成20年(2008) 食品偽装問題
- 観光庁発足
- 観光庁発足
- 観光庁発足

【1950年】 1950年4月、旅行新聞をタブロイド版2頁で、新聞発行所は東京・日本橋・日本火災海上ビル内、1957年7月、タブロイド版4頁へ。東京・千代田区神田美土代町美土ビルへ移転。1958年2月、大阪支局を開設。1959年4月、大阪2頁発行の週刊紙に切り換える。

【1960年】 1960年10月、資本金30万円の株式会社に移転、取締役社長に児玉登が就任。1961年8月、会社分裂で、旧社員による「日本旅館新聞」(月刊4頁)が発行される(3年後に倒産)。1961年10月、江口恒明が分社後に編集長として入社。1963年3月、資本金を200万円に増資。江口恒明が専務取締役に就任。1964年9月、本社を東京・中央区宝町に移転。

【1970年】 1970年4月、大坂4.8頁の週刊紙へ。1974年1月、倒産同様の状況に追い込まれる。1974年4月1日、取締役社長に江口恒明、取締役副社長に河合美佐男、監査役に伊藤晴彦が就任。再建計画をスタート。資本金を480万円に、さらに1240万円に増資。株主数46名、抜本的な企業体質の改善を図る。1974年10月1日、職場環境の改善を図り本社を千代田区西神田の新ビルへ移転。1974年12月19日、東京・八重洲の観光クラブで第14回

【1980年】 1981年10月、創刊30周年、論文コンクールなど多彩な事業出版を実施。1982年10月、「公旅連支部から」のコーナー欄開設。1984年9月、NHKラジオ第1放送ニュース番組「ピジネストビックス」に江口社長が出演、以後10回放送。1986年6月6日、公旅連創立30周年記念大会で、本誌に感謝状。1986年12月、新年号掲載の大手4社旅行業トップの座談会(会場、東京紀尾井町・福田家)が定着行事となる。1987年3月、決算期を10月から3月末に変更。1987年5月、フジテレビ朝のニュース番組で、本誌を観光産業のユニーク代表専門紙として7分間放映。1987年9月、第1回「にっぽんの温泉100選」を実施。旅館人気番付ベスト200発表。1987年10月、創刊1500号を迎える。2回で64頁の特集号を発行。1989年4月、女性の時代の中で女将商法の役割を重視し、「女将商法のあれこれ」座談会シリーズスタート(年2回)。1989年6月、本社主催の美術展を開催(鬼怒川・伊東・箱根)。1990年6月、本社主催の美術展を開催(鬼怒川・伊東・箱根)。

【1990年】 1990年8月、創刊40周年を迎える。特集号3回で84頁を発行。1991年3月、第1回「観光雑誌セミナー」(韓国で600名参加)で江口社長がトップバッターで講師を務める。

【1995年】 1995年1月、本社を東京・上野池之端に移転。本社と編集製作現場の一体化を図る。1994年2月、実務レベルの関係先を招き、工場見学を兼ねた本社転移披露。1994年9月、東北ツアーの管理職教育のセミナーを担当(年間)。1994年10月、編集紙面に「全旅連から」のコーナーを「日観連・国観連・JTB旅連から」のコーナーに加える。1995年1月、本社推進「キャンベントマ」を設ける(1)特消税を地方消費税に吸収し、低価格時代、経営の再構築を推進し、(2)旅行業と旅館・ホテルの真の一体化を(3)祝日3連休の国民的合意を図る。1995年4月、創刊45周年を迎える。1995年7月、本社「キャンベントマ」のひとつである特別地方消費税撤廃運動で、「主張」を「キャンベントマ」を実施し、業界に大きなインパクトを与え、特消税対策の運動資金100万円を全旅連青年部へ贈呈。1995年9月、委託出版として小冊子「おかみ」を発行。全旅連各県旅組推薦の135人の女将奮闘記を収録したもので、全旅連大会の記念誌。1996年1月、「観光経済新聞縮刷版」(平成6・7年版)を発行。1996年7月、委託出版として「運輸大臣表彰のワロワイル」を発行(例年の出版)。1996年8月、東北ツアー社員研修を実施(委託事業2年間を終了)。1996年8月、本社第2会議室を設ける。約35坪で座談会「セミナー」など多目的利用の会議室を。1997年1月、21世紀へ本社のあるべき姿(経営理念・ビジョン)を全社員会議で発表。1997年3月、第36期決算で、景気低迷期にかかわらず、売上額は最高を記録(しかし増収減益)。1998年4月、創刊2000号記念出版として平成8・9年の「縮刷版」を発行。1998年6月、創刊2000号を迎える。32ページの特集号を発行。1998年7月、江口社長が東京霧ヶ峰ライオンクラブ第3期会長に就任。1998年7月、創刊2000号を記念した論文コンクールの入選作品を発表。優秀賞2点、佳作5点。1999年1月、優待刷新、読みやすい紙面にするための記事をジャンルごとにページ分け。1999年8月、女将が薦める女将の宿「ほのぼの」が、本社を事務局として立ち上げ。1999年10月、江口社長が日本専門新聞協会の功績賞を受賞。

【2000年】 2000年1月、「人気温泉旅館ホテル250選認定証授与式」を東京・池袋のホテルメトロポリタンで初開催。関係者300人が出席。250選に選ばれた旅館・ホテルに星のマークの認定証を授与する。2000年1月、「人気温泉旅館ホテル250選認定証授与式」の懇親会で本社ホームページを公表。同時に、インターネット上に公開可能な「動画CM」のプレゼント・アクションを行う。2000年4月、創刊50周年。特集号の発行は景気低迷期に引き見送る。

【2001年】 2001年1月、第2回「人気温泉旅館ホテル250選認定証授与式」を東京のホテルメトロポリタンで開催。本紙の創刊50周年を記念した論文コンクールの入賞者表彰式も同時に行う。2001年2月、海外旅行の専門誌を発行する「トラベルジャーナル」と業務提携に合意。2001年5月、トラベルジャーナルとの業務提携を関係者に報告する昼食会を東京の東京ステーションホテルで開催。2001年7月、トラベルジャーナルとの業務提携に伴い、北海道、東北、名屋、九州の4支局を開設する。2002年7月、読みやすい紙面にするための新聞の活字を大きくする(1段12組み)。2002年3月、中国の国営観光専門紙「中国旅游网」と業務提携に合意。中国土に33の支局を持つ週3回発行の専門紙。2002年3月、台湾の月刊旅行雑誌「台湾フランク」などを発行する「日僑文化事業股份有限公司」と業務提携。2002年7月、韓国の観光旅行専門紙「韓国旅行新聞社」と業務提携に合意。東アジア圏の報道ネットワークを構築する。2003年1月、「人気温泉旅館ホテル250選認定証授与式」の会場を同年から東京・浅草ヒューホテルに変更。2003年5月、本紙に連載のコラム「体験型観光のすすめ」(藤澤安民氏著)を一冊まとめた単行本を出版。2003年5月、江口社長が日本専門新聞協会理事に就任。

【2003年】 2003年10月、参議院選挙に出馬予定の小原けんじ氏の援会発行の冊子「小原けんじ物語」の編集協力。

【2005年】 2005年12月、台湾・新光グループの新光銀行が高額預金庫に発行している雑誌「インフイニティ」に掲載する。日本の高級旅館の紹介記事を編集協力。2004年1月、「人気温泉旅館ホテル250選認定証授与式」で5年連続入選の施設に「5つ星」の認定証を初めて授与する。業界初の「宿の格付け」と話題に。2005年2月、「日本旅館ホテル名鑑」出版。日本の各旅館の企業情報を掲載した日本初の名鑑。2005年2月、上場企業約2000社へ新聞記事を配信する「Eネット」と連携。2005年4月、創刊55周年を迎える。2005年7月、「観光栃木の魅力を創る女将の会」が発行する冊子「癒しの旅へ」栃木の宿、女将たちの物語り」の編集協力。2005年10月、天皇皇后両陛下主催の秋の園遊会に江口社長が日本専門新聞協会代表で出席。両陛下からお言葉を頂く。2005年10月、常務取締役積田朋子(積田)が日本専門新聞協会の役員表彰。2006年3月、創刊55周年記念出版「5つ星の宿」を出版。「人気温泉旅館ホテル250選」に5年以上入選した宿の紹介本。2006年7月、韓国・済州島へ社員研修旅行。済州道観光協会を表敬訪問する。2006年10月、冊子「日本の宿、女将、旅行、伝統文化を守る日本旅館の女将にスポットを当てて各旅館の紹介本」2007年5月、前年に続き、冊子「5つ星の宿」(2007年版)を発行。2007年9月、旅館対象のセミナー「金融機関との上手な付き合い方」を山田ビジネスコンサルティングと共同で開催。2008年4月、「5つ星の宿」2008年版を発行。2008年10月、「観光庁」の発足を記念して32頁の特集号を発行。2009年1月、創刊2500号。

# 「観光経済新聞」2500号までのあゆみ



編集製作と印刷工場が一体化した東京本社(ディ・エスビル)

週刊「観光経済新聞」は業界で最も多く読まれている専門紙です